

ムコノショウ 庄 プラスワン

今日より明日を良くする心を創る。「明日はできる」今日に挑戦！！

令和2年度 尼崎市立武庫庄小学校 グランドデザイン

学力調査結果等から見た学力向上ついで課題

○全国学力調査テストや授業から

・基礎学力に関しては、概ね定着できている児童が多い。しかし、3年生以上になると、家庭での学習習慣が定着している児童と、そうでない児童との差が広がる傾向にある

○家庭学習から

・基礎的な家庭学習については、家庭の協力もあり、ほとんどの児童に定着している。しかし、発展的な学習については、積極的に取り組む児童の数は、増えていない。

○教員の資質の向上について

・学年主任を中心とした学年団での交流はある。
・自主的にお互いの考え方について交流する場は設定していない。

課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)

授業力向上への取組

○授業研究から

・外部より優れた指導力をもつ講師を招いて、主体的、対話的な学習について本校教諭の授業をもとに、指導を受ける。
・学習課題の設定・確認から、振り返りまでの学習パターンが定着するよう、継続的な指導に取り組む。

○授業の体制について

・5、6年生 算数科を複数指導実施
・兵庫型教科担任制により、複数の教師で子ども達を見守る。

学習習慣定着に向けた取組

○日々の様子から

・生活点検を実施
基本的な生活習慣の定着
自主学習の習慣化を目指す。
・朝の帯タイムに読書や国語科に関する学習を行う。
・「学習の手引き」を活用し、自主学習の定着を目指す。

その他の取組

○学力定着をめざして

・週1回放課後学習を実施する。
実施時間：毎週木曜6時間目
実施時間は、原則である。
全校生で課題を解く。
昨年度末から今年度にかけて定着すべき内容を中心に学習を行う。

本年度の具体的な目標

○全国学力調査等から

・児童アンケートで「勉強がよくわかる」と答える児童の割合 83%以上を目指す。

○尼崎市ステップアップ調査から

・C,D層への手立てを検討し取り組む
→授業内容の見直し、放課後学習

○生活点検等から

・生活点検を行う
家庭学習時間（進んで机に向かう時間）を学年目標時間に達する児童の割合60%以上を目指す。
テレビやゲームをする時間は、2時間以下の児童の割合を、70%以上を目指す。

校種間連携

○小中連携

・オープンスクール等でお互いの授業を参観し理解を深める。
・中学校教諭による出前授業
・クラブ体験（6年生対象）
・夏季休業中の合同研修会
・中学生によるあいさつ運動
・生徒指導のルールの共通理解・入学前テスト（会場：武庫東中）
・生徒会訪問
・武庫東中学校体育大会の見学及び参加
・3校共通のスローガンを掲げた横断幕の掲示
・本校外国語専科による小中授業交換実施

○幼保小連携

・校庭や図書室などの開放
・学校行事（音楽会）への招待
・合同避難訓練

活用する支援内容

支援内容	具体的内容
(1)講師招聘支援	校内授業研(国語)元奈良女子大学特任教授 相田萬理子氏から指導を受ける。「聞き合い」を手法とする物語・説明文
(2)先進校視察支援	自分が学びたいと思う学校に数名参加し校内にて周知する場を設ける(学校予算)
(3)授業補助支援	1年から4年生までの学級に1週間で1授業支援する。
(4)放課後等学習支援	木曜日の6校時、本校職員が全校生対象で課題を提供してきた児童から下校させ学力の定着を図る。
(6)地域人材活用支援	各学級にて、読み聞かせを地域ボランティア12人に行ってもらう。

家庭・地域との連携

○実態を知り手立てを考える。

・生活点検（毎月1週間）を行い、児童の実態を担当が知る。その上で、基本的な生活習慣の定着と共に家庭での自主学習の習慣化を目指す。
・「学習の手引き」を活用させることによって家庭学習の意義や自主学習の方法などを知らせ、児童が主体的に学習できるように促す。
・学校便りの裏面に「学びのひろば」を毎月掲載し、学力の充実に向けての理解、啓発に努める。
・ホームページやミマモルメ等の活用を増やす。

○地域人材を活用する。

・3年武庫一寸豆植え付け
・4年武庫一寸豆収穫
・5年米作り体験から食育やしめ縄作り等へ発展
・読み聞かせボランティアから読書の楽しさを学ぶ。